

緩和ケアチーム(がんサポートチーム)

がんで入院されている患者さんやそのご家族の身体的、精神的、社会的な苦痛やスピリチュアルペインを和らげることを目的として、2009 年 1 月に“緩和ケアチーム”が発足しました。当初は医師・看護師・薬剤師によるカンファレンスおよび病棟回診を隔週 1 回で開始しましたが、需要に合わせて体制を整え、現在は週に 2 回の頻度で病棟をラウンドしています。また 2020 年 4 月からは常勤の精神科医と臨床心理士をメンバーに加え、緩和ケアの提供内容の充実を図っています。

入院患者さんだけでなく、通院の方や地域でがんについての悩みを持つ方の力になろうと、緩和ケア外来やがん相談支援室も充実させつつあります。特に、抗がん剤治療中に心理面での不安や悩みが強く、治療に支障がでそうな患者さんには、精神科医による緩和ケア外来、または心理士が担当するカウンセリング外来(緩和ケア外来 2)で心理的なサポートをする体制をとり、治療早期からの緩和ケアとがん治療の統合を目指しています。

当院には緩和ケア病棟がありませんので、主にはがん治療期～がん治療の中止期の患者さんに関わることが多いです。この時期は主治医や病棟看護師の負担も大きくなる時期ですので、主治医を含めた医療従事者の負担を緩和することも重要な活動目的に位置づけています。

当院で主催しています「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」も 2009 年から毎年欠かさず開催を続け、当初より院内医師のみならず、調剤薬局、訪問看護師などのメディカルスタッフも含め、所属、職種を問わず受講者を受け入れてきました。2018 年度からは厚労省の開催指針が変更され、緩和ケアに従事する全ての職種が受講対象となりました。今までの活動が先駆的な取り組みであり、着実に地域の人材育成に貢献してきたと自負しています。

これからも地域との連携を強化して、よりニーズに応えられるチームに育てていきたいと考えています。